

# Fado, muito prazer em conhecê-lo!

## ファドに、はじめまして!

3 de agosto, 2012 N.N.Estúdio

### ●ファドということば●

(1) ポルトガル語の「ファド fado」は、古典ラテン語(約2千年前のローマ帝国公用語)「ファトゥム fatum」が形を変えたもので、「運命、宿命」といった意味です。そして、数百年前から、おもに詩人が好んで使用用語でした。運命を意味するふつうのポルトガル語は、今日まで、*sina* または *destino* です。

音楽に関係してファドということばが最初に登場するのは、19世紀のはじめ(いちばん古い記録は1822年)で、ブラジルで、この土地に奴隷として連れてこられて民衆の重要な(人数も多い)構成要素となっていたアフリカ系の人たちが楽しむダンスの名前でした。

ブラジルは当時ポルトガル領で、リオをポルトガルの首都にしようとした国王もいたくらい密接な関係がありましたが、このアフロ=ブラジルのファドと、わたしたちが聴いているリスボンのファドとの関係は、今となってはわかりません。

(アフリカ系のダンス「ファド」の延長線上にある、踊りながら体をぶつけ合うダンス・遊戯ファドは、リスボンの酒場・男の遊び場でも流行していたことは確かですが……)

(2) 1830年ごろから、リスボンの男の遊び場(娼婦のいる場所。形式的には酒場、食堂などだった)を「ファドの家 *casa de fado*」と呼ぶことが、はじまったと言われます。暗い運命を背負った女性たちがいる家という意味でしょう。そんなところに行く男たちを、恐ろしい運命が待ち受けているという意味も含まれていたのでしょうか?

「ファドの家」は、リスボンに点在した、もっとも貧しい人たちが住む地域にありました。そこに来るのは犯罪者、ならず者、貧しいけれどちゃんと働いている人、そして文人、知識人、貴族もいました。

……

この「ファドの家」ということばは、やがて使われなくなりましたが、ずっと後になって、1950年代から、ファド歌手のショーのある店を、こう呼ぶようになりました。今日でもそうです。



ただし、現在でも「ファドの家」というのは、業種の正式の名前ではありません。1950年代から、ほとんどの店は「郷土料理店」という看板を掲げています。

(3) ファディシュタ *fadista* ということばがあります。このことばは「ファドの家」にいる女性すなわち「娼婦」という意味で使われたのが最初です。

やがては、女性だけではなく、男性でも道を外した人——犯罪者、やくざもの、住所不定・無職——、ファドの家の世界の人々は「ファディシュタ」と呼ばれました。差別用語です!

1920年代から、ファドをうたうアーティストも、「ファディスタ」と呼ぶようになりました。ただし、本来のファディシュタの意味する悪いイメージはずっと残っていたので、ただ単に、「ファドの歌手(女性/男性) *cantadeira* / *cantador de fado*」ということも多かったようです。今日では、悪いイメージはまったく忘れられて、「ファディシュタ」はむしろ敬意をこめた呼び名です。

### ●ファドと呼ばれる歌●

(1) ポルトガルの首都リスボンの、「ファドの家」でうたわれる歌が「ファド」という名前で呼ばれるようになったわけです。最初の時代(19世紀のなかば過ぎくらいまで)、歌う女性のほぼ全員が娼婦でした。男性のほうは、監獄に出たり入ったりしている人や、職人、何かあれば働くが定職はない人、などです。

ファドは都会のフォルクローレ・民謡だったといえます。歌詞の内容は、ロマンティック、あるいはセンチメンタルな恋歌、個人攻撃・からかい・皮肉の歌、出来事・事件を物語る歌など……。場所柄、エロティックなキワドイ歌もあったはずですが、それらは記録に残されていません(当時は、ファドの歌詞集が、道ばたで売られたりしていたので、かなり多く資料があるのですが)

(2) 19世紀のなかば過ぎから、ファドは「ファドの家」から出ました。こういう歌が大好きになった貴族や知識人たちが、自分の邸宅や高級料亭などでのパーティに、ファドの歌手たちを呼び、いわゆる上流階級の人たちにもファドのファンを広げたのです。

また、詩人(アマチュアも含めて)やクラシック音楽家による、ファドの編曲・作曲もはじまり、良家の子女がピアノで弾くために出版されたりもしました。

(3) この上品なファドの創作とほぼ時代的に平行して、コインブラ *Coimbra* でも、大学生がファドをつくり、うたうようになりました。当時リスボンに大学はなかったので、高等教育を受ける人はみんなコインブラ大学に行ったのです。コインブラのファドは、リスボンの真の(!)ファドより、文学的・音楽的に凝った洗練したスタイルで、ひとつの伝統をつくりました。

(4) 1920年代から、リスボンのレビューやオペレッタの挿入歌として、「ファド歌曲 *fado canção*」がたくさん作られるようになりました。一言でいえば「ポルトガルの歌謡曲」なのですが、これもファドの1種と認められています。

## ●ファドの歴史をつくったアーティストたち●

### マリーア・スヴェーラ *Maria Severa (1820-46)*

ファドの最初の時代の、いちばん有名な歌手。亡くなった直後から、彼女をうたう歌詞がたくさんつくられ、伝説の存在になった。ファド好きのヴィミオーザ伯爵の愛人のひとりだったが、それが美化されて、伝説の中心テーマになってきた。

シガーナ *cigana* (=ロマ、いわゆるジプシー女性)だと言われてきたが、それは嘘。褐色の肌の魅力的な女性で、背が高く、声がよく、即興の歌いぶりがすばらしかったということは事実。(前ページにある絵は、20世紀はじめのもですが、本物のスヴェーラを見た古老たちの話をもとに描かれたものです)

母親は《バルブーダ(ひげ女)》というあだ名の(本当にひげが生えた)、いつもナイフをガーターベルトに指している、こわい娼婦だった。

### アルフレード・マルスナイロ

*Alfredo Marceneiro (1891-1982)*

リスボンの貧しい家庭の生まれ(父親は靴つくりの職人)で、本人は優秀なマルスナイロ(高級家具職人)になった。ファドをうたう男性の第一人者になっても、ずっと(定年まで)海軍の家具工場で働く労働者だった。

うまれつき歌がうまく、また知性が高かったので、神学校の特待生として文学や音楽の高等教育を受ける道が開かれたが、家計を助けるために勉強はあきらめた。(学校で勉強する必要はなかったと、わたしは思います)

また、20世紀はじめの大衆の最高のエンターテインメントだった、カーニバルの民衆劇《セガダ *cegada*》が大好きで、17才のころから、これに出演し、やはり天性のものだった朗読術に磨きをかけた。

ポルトガル語のことばの流れ・文法を、最高度に尊重した、歌い語るスタイルを創始した。

また今日まで歌い継がれている、いくつかのファドのメロディの作曲者でもある。

### アルマンディーニョ *Armandinho (1891-1946)*

最初の時代のファドは、多くの場合ヴィオーラ *viola* (ふつうのギター)で伴奏されていた。19世紀の末には、イギリスから入ってきた楽器ギターラ *guitarra* (いわゆるポルトガル・ギター)が中心的な楽器になっていた。

数多くの名手たちが登場したが、アルマンディーニョはその集大成ともいべきギタリストで、それまでのすべてのスタイルの形を整え、洗練し、また自身の創作も加えて、ファドのギターラの伝統を確立した巨匠である。

また、1930年ごろから、ファド専門の音楽会場をつくり、ファドのプロ歌手・音楽家たちの活動の場所をひらいた。それまでは、ファドは酒場の即興か、レビュー劇場の挿入歌としてしか、聴く機会がなかった。

マルスナイロのつくったメロディを楽譜に定着するなど、プロのファド作詞・作曲家を一般に認知させることに

も大きな功績を残した。

### ジョアオン・リニャールシュ・バルボーザ *João Linhares Barbosa (1893-1965)*

若いころは、街角でうたいながら、自分が作ったファドの歌詞集を売っていた。

1920年代から、ファド専門の雑誌(アーティストや歌詞の紹介が、おもな内容)の編集長・記者として、大きな足跡を残した。一方では、ベルタ・カルドーゾ *Berta Cardoso* をはじめとするスター歌手たちに、歌詞を売って、ほとんど唯一のプロの作詞家となった。

(当時ファドの歌詞は、高等教育を受けた詩人・文人、またはレビューの脚本家が書いていた)

リニャールシュ・バルボーザは、独学で最高度の詩作技法に精通し、民衆のことばで、生き生きとしたアイデアにあふれた(そして、とても流れの良い)、すてきな歌詞を非常にたくさん書いた。

先のアルマンディーニョたちとともに、ファドのアーティスト専門の活動の場所をつくる、ファドを社会に認知する活動でも中心人物のひとり。

「ファドの詩人」といったら彼のこと。リスボン名誉市民の称号を授けられ、とある小さな通りに彼の名前が付けられている。

### アマーリア・ロドリグシュ

*Amália Rodrigues (1920-99)*

ポルトガル中東部出身の両親のもとに、リスボン生まれ、ここで育った。子どものときから、すばらしい歌手だった。小学校は優秀な成績で卒業したが(2年半で!)、9才のころから果物売りなど街角で働いて家計を助けていた。15才のとき、地区代表として、祭のパレードで歌ったのが、公式のアーティスト・デビュー。すぐに、プロの歌手として、ファド・レストランに出演し、すぐに大スターになった。やがて、スペイン、ブラジル、フランス、アメリカ合衆国などで公演して、世界にファドを知らせた。

日本では、1950年代に、フランス映画『過去を持つ愛情』への出演で、多数のファンをつくった。1970年には、大阪万博に出演、ついでに東京でコンサート1回、ライブ録音もした。中年過ぎてからは、数回コンサート・ツアーをしている。



アマーリアの歌の技術・音楽性・表現法は、ファドというジャンルを完全に超えたもので、20世紀の(おそらくは過去も未来も含めて)世界のポピュラー音楽の女性歌手の最高峰のひとり。

民衆詩人・作詞家としても一流で、彼女の歌詞は、本人だけでなく、今日の若い歌手たちにも愛され、うたわれつづけている。

## 第1部 ファドとは何?

高場 将美 (はなし)

### 1. スヴェーラの新しいファド

#### *Novo fado da Severa*

詞: ジューリオ・ダンタシュ Júlio Dantas

曲: フレデリコ・ド・フレイタシュ  
Frederico de Freitas

ディーナ・テレザ Dina Teresa

(1931年の映画『ア・スヴェーラ』より)

*Tenho o destino marcado  
desde a hora em que te vi;  
Ó meu cigano adorado,  
viver abraçado ao fado,  
morrer abraçado a ti.*

わたしの運命は はっきりと刻まれている  
あなたに会ったその時から、  
—おおわたしの心を捧げたジブシーよ—  
ファドと抱き合って生きること、  
あなたと抱き合って死ぬこと。

### 2. マリーア・スヴェーラ

#### *Maria Severa*

詞: ジョゼー・ガリヤルド José Galhardo

曲: ラウール・フェラオン Raúl Ferrão  
スレシュト・マリーア Celeste Maria

●ギターラ: セルジオ・コシュタ Sérgio Costa

*Guitarras, trinaí  
viradas ao céu.  
Fadistas, chorai  
porque ela morreu.*

ギターラたちよ、小鳥のようにさえずれ  
空に向かって。  
ファディシュタたちよ、泣け  
彼女が死んでしまったから。

### 3. ファド・バイラード (ダンス会のファド)

#### *Fado bailado*

詞: エンリーク・レゴ Henrique Rêgo

曲: アルフレード・マルスナイロ Alfredo Marceneiro  
アルフレード・マルスナイロ  
Alfredo Marceneiro

*À mercê dum vento brando  
bailam rosas nos vergéis  
e as Marias vão bailando  
em quanto vários Manéis  
nos harmónios vão tocando.*

.....  
*Tudo baila, tudo dança,  
nosso destino é bailar  
e até mesmo a doce esperança,*

*dum lindo amor se alcançar,  
de bailar nunca se cansa.*

とある やわらかい風に誘われて 庭のバラたちは踊る、  
マリーアたちは踊りながら行く、そのあいだ  
何人ものマヌエールたちが手風琴を弾きながら行く。  
.....すべてが踊る、すべてがダンスする。  
わたしたちの運命は踊ること。  
甘い希望までもが、すてきな愛に手がとどくと  
決して疲れることなく 踊っていく。

### 4. 聖ジョアオン祭の夜

#### *Noite de São João*

詞: ジョアオン・リニャールシュ・バルボーザ  
João Linhares Barbosa

曲: ジョゼー・マルケシュ José Marques  
ベルタ・カルドーゾ Berta Cardoso

*Foi numa noite de verão  
de emoção, pelo São João  
que resolvi ir ao baile.  
Vesti um traje catita  
de chita, muito bonita  
e o mais vistoso xaile.*

夏の ある夜のことであった、  
聖ジョアオンの祭りで気持ちがいっぱいになって  
わたしはダンスに行く決心をした。  
品のいい ふだん着を着た、  
シータ(あざやかな色プリントのコットン布地)で、とてもすてき、  
そして いちばん派手なショール。

### 5. 私たちのファドの物語

#### *A história do nosso fado*

詞: ジョアオン・リニャールシュ・バルボーザ  
João Linhares Barbosa

曲: ジャイム・サントシュ Jaime Santos  
ルシーリア・ド・カルモ Lucília do Carmo

*Dizia-se em poucas linhas  
a história do nosso fado;  
tuas vontades, as minhas  
e pronto tudo acabado.*

*Olhámo-nos certo dia,  
depois um beijo trocado;  
é assim que principia  
a história do nosso fado.*

ほんの数行で語られた  
私たちのファド(運命)の物語。  
あなたの望む気持ち、わたしの望む気持ち  
それだけでできあがり、すべてが語り終わった。

ある日わたしたちは見つめあった、それからキスの交換、  
このようにして始まった 私たちのファドの物語。

## 6. 島のファド *Fado da Ilha*

詞：ヴィセント・ダ・カマラ *Vicente da Câmara*

曲：フランシスコ・ヴィアーナ *Francisco Viana*

ヴィセント・ダ・カマラ *Vicente da Câmara*

•ギターラ：ジョゼー・フォントシュ・ロシャ  
*José Fontes Rocha*

*Tudo canta noite e dia,  
sai nunca, nunca parar,  
e a lembrar tempo distante  
não pode o fado acabar.*

すべてのものがうたう、夜も昼も、  
歌から出て行かないで、止めないでくれ、  
そして遠い時代を思い出していれば  
ファドは終わることができない。

## 7. アルファーマの路地

### *Vielas de Alfama*

詞：アルトゥール・リバイロ *Artur Ribeiro*

曲：マックス *Max*

カルロシュ・ラモシュ *Carlos Ramos*

*Horas mortas, noite escura,  
uma guitarra a trinar,  
uma mulher a cantar  
o seu fado de amargura.*

.....  
*Vielas de Alfama  
beijadas pelo luar,  
que me dera lá morar  
p'ra viver junto do fado.*

死んだ時間たち、暗い夜、  
小鳥のようにさえずっているギターラひとつ、  
うたっている女ひとり、彼女の苦悩のファドを。  
……アルファーマの路地たち、月の光にキスされて、  
わたしはそこに住めたら どんなにいいだろう  
ファドといっしょに生きるために。

## 8. リスボン、純潔な王女

### *Lisboa, casta princesa*

詞：ジョゼー・ガリヤルド *José Galhardo*

曲：ラウール・フェラオン *Raúl Ferrão*

アルジェンティーナ・サントシュ  
*Argentina Santos*

*Lisboa, casta princesa,  
que o manto da realeza  
abres com pejo  
num casto beijo.  
Lisboa, tão linda és,  
o que tens de rastos aos pés  
é a majestade do Tejo.*

.....  
*Sete colinas*

*são teu colo de cetim,  
onde há as casas tão bonitas  
espalhadas em jardim.*

*E no teu seio  
certo dia foi gerado  
e cantado pelo povo  
sonhador, o nosso fado.*

リスボン、純潔な王女、  
あなたは王家のマントを恥ずかしげに開く  
清いキスとともに。

リスボン、あなたはなんと美しい、  
あなたが足元に引きずっているのは タイジョ川の威厳。  
……7つの丘、それがあなたのサテンの襟(えり)飾り、  
そこでは家々はとても美しい、庭の姿に散らばって。  
そしてあなたの胸に、ある日芽生え  
夢見るひとびとに うたわれたのが、私たちのファド。

## 9. わたしは歌いながら人生に入って

### きました *Entrei na vida a cantar*

詞：アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

曲：《ファド・モウラリア》“*Fado Mouraria*”

アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

•ギターラ：フェルナンド・ド・フレイタシュ  
*Fernando de Freitas*

*Entrei na vida a cantar  
e o meu primeiro lamento  
se foi cantando a chorar,  
foi logo com sentimento.*

.....  
*A vida tenho passado  
alegre ou triste a chorar,  
tem sido vário o meu fado,  
mas constante o meu cantar.*

わたしは 歌いながら 人生に入ってきました、  
そして わたしの最初の哀歌は  
泣いて歌いながら行ってしまったけれど  
やがてそこに深い気持ちが入っていました。

……わたしは人生をずっと過ごしてきました  
わたしのファド(運命・うた)はさまざまに変わってきました  
でも わたしの歌声はいつも変わらず、これからも。

## 10. 川辺の民 (川で洗たくするひとびと)

### *Povo que lavas no rio*

詩：ペドロ・オーメン・ド・メロ *Pedro Homem de Mello*

曲：ジョアキーン・カンボシュ *Joaquim Campos*

アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

•ギターラ：ジョゼー・フォントシュ・ロシャ  
*José Fontes Rocha*

*Povo que lavas no rio,  
que talhas com teu machado  
as tábuas do meu caixão,*

*Há-de haver quem te defenda,  
quem compre o teu chão sagrado,  
mas a tua vida não!*

.....  
*Aromas de urze e lama!  
Dormi com elas na cama...  
Tive a mesma condição.  
Povo, povo, eu te pertencço.  
Deste-me alturas de incenso.  
Mas a tua vida não.*

川で洗たくするひとびと、あなたたちの斧が  
わたしの棺(ひつぎ)になる板を削ってくれる。  
あなたたちを守ってくれる者が出てくるにちがいない、  
あなたたちの聖なる土地を買おうとする者も、  
でもあなたたちの命は ナオン!

.....ヒースと泥の匂い! わたしはその匂いたちとともに  
ベッドに入った.....同じ暮しをした。  
ひとびとよ、わたしはあなたたちの一部だ。  
あなたたちは、祈りの場に薫る煙りの高さを  
わたしにくれた。——でもあなたたちの命は ナオン!

## 第2部 詩人たちのファド

峰 万里恵 (うた) 高場 将美 (ギター)

### 1. アルファーマ *Alfama*

詞: アリ・ドシュ・サントシュ *Ary dos Santos*  
曲: アラン・ウルマン *Alain Oulman*

リスボンに夜がきて 帆のない帆船のようになるとき、  
アルファーマのすべてはまるで 1軒の窓のない家の  
ようだ。そこでひとびとは寒さにこごえる。

悩みから盗んできた空間の、それはひとつの屋根裏  
部屋。そこにアルファーマは閉じこめられている、四  
方を水の壁に囲まれて。

四方は涙の壁、四方は苦悩の囲い。夜になるとそれ  
らは歌声となる。街のなかで燃える。

みずからの幻滅に閉ざされて、アルファーマはサウ  
ダードの匂いがする。

アルファーマはファドの匂いはしない。民衆の匂い、  
孤独の匂いがする。悩みにみちた沈黙の匂いがする。  
パンについた悲しみの味がする。

アルファーマはファドの匂いはしない。でも ほかの  
歌はもっていない。

アルファーマはファドの匂いはしない。でも ほかの  
歌はもっていない。

### 2. つめたい明るさ *Fria claridade*

詩: ペドロ・オーメン・ド・メロ *Pedro Homem de Mello*

曲: ジョゼ・マルケシュ・ド・アマラル  
*José Marques do Amaral*

あの、あんなにも悲しい日の 明るさのまんなかで、  
大きかった、街は大きかった。  
そしてだれも わたしのことを知らなかった。

そのとき わたしのところを通り過ぎた、後に美しい  
ふたつの目。わたしは夢を見ているのだと思った。  
とうとう、この世にそのふたつしかないような、ふたつ  
の目を見て。

わたしのすべての感覚の中に、わたしは神の予感をも  
った。

あの、あんなに美しい両目は、わたしの両目から離  
れていった。

わたしは目を覚まし、明るさは もっと大きく、もっと冷  
たくなった。

大きかった、街は大きかった。そしてだれも、わたし  
のことを知らなかった。

### 3. わたしの愛は海の男 *Meu amor é marinheiro*

詞: マヌエル・アレーグル *Manuel Alegre*  
曲: アラン・ウルマン *Alain Oulman*

わたしの愛は海の男、大海原に住んでいる。彼の両  
腕は風のような。だれにもしぼりつけることができない。

わたしの愛がわたしのそばにやってくるとき、わたし  
の血のすべてが ひとつの川になる。そこに わたしの  
愛は停泊させる、わたしの心を——それはひとつの  
船。

わたしの愛は言った、わたしには 口にサウダードの  
味があると。そして、わたしの髪では 風たちと自由が  
生まれると。

わたしの愛は海の男、わたしのそばに やってくる  
とき、わたしの口にカーネーションの火をつける。そして  
こんなふうにくたう——

「わたしは遠く、あちらの遠くに生きている。そこは船  
たちが住んでいるところ。でもいつの日かわたしは帰  
ってこよう、わたしたちの川たちの流れに。

わたしは いくつもの街を歩いていこう、砂の上を過  
ぎる風のように。そして すべての窓を開こう。そしてす  
べての くさりを開こう」

わたしの愛は海の男、大海原に住んでいる。

自由に生まれた心を、くさりで つなぐことはできない。

#### 4. 通りの名前 *Nome de rua*

詞：ダヴィード・モウラオン＝フェレイラ  
David Mourão-Ferreira

曲：アラン・ウルマン Alain Oulman

あなたは わたしに通りの名前をくれた、リスボンの、とある通りの名前を。それは人の名前というよりは、まったく通りの名前。小さな船に付ける名前のような、そんな通りの名前。

静かな通りの名前。そこは 夜はだれも通らない。そこでは嫉妬は1本の矢、そこでは愛は1頭の獲物。

秘密の通りの名前。そこは 夜はだれも通らない。そこではあの詩人の影が、とつぜん わたしたちを抱擁する。

すこしの にがさをもって、たくさん マドラゴア(リスボンの波止場に近い地区名)気分をもって、なにかを探し求めている人の くるしげな顔と、許す人の笑い声をもって、あなたはわたしに通りの名前をくれた、リスボンの とある通りの名前を。

静かな通りの名前。そこは 夜はだれも通らない。そこでは嫉妬は1本の矢、そこでは愛は1頭の獲物。

秘密の通りの名前。そこは 夜はだれも通らない。そこでは、だれか詩人の影が、とつぜん わたしたちを抱擁する。

#### 5. わたしは愛する人を怒りました

##### *Zanguei-me com o meu amor*

詞：ジョアオン・リナルシュ・バルボーザ  
João Linhares Barbosa

曲：《ファド・モウラリア》“Fado Mouraria”

わたしは愛する人とけんかした。1日ちゅう彼を見なかった。そしたら、夜には もっと上手にうたえた、モウラリアのファドが。

とあるサウダードの風がひと吹き、わたしにキスしに来た——時が来たのだ、もっと気のむくままにいられる時。わたしはサウダードを追い出してやった。

朝になると後悔して、思い出して わたしは泣きだした。人生で愛を失った人は、決してうたってはいけなかった！

巢に帰ってきたとき、口笛のへたな彼が、小さく口笛を吹きながら来た。モウラリアのファドを！

#### 6. どの声で *Com que voz*

詩：ルイーシュ・ド・カモンエシュ Luís de Camões

曲：アラン・ウルマン Alain Oulman

どの声で、わたしは わたしの悲しい宿命を泣こうか、こんなつらい受難にわたしを埋葬した宿命を。

痛みは 今よりも大きくは ならないでほしい、わたし

に「時」が残した痛みは。希望を取られてしまったわたしの幸せの痛み——希望を取られてしまったわたしの幸せ。

でも 泣くのは このありさまでは価値ないこと。そこでは ため息も 決して役に立たなかった。

悲しくわたしは生きたい。なぜなら悲しみが変わってしまったから、過ぎた時のあの喜びが。

これほどの不幸の、その原因は純粋な愛、いまわたしとともに いないひとのせいで。そのひとゆえに、命と愛のさまさまの幸せを わたしは危険にさらして賭ける。

どの声で、わたしは わたしの悲しい宿命を泣こうか、こんなつらい受難にわたしを埋葬した宿命を。

痛みは 今よりも大きくは ならないでほしい、わたしに「時」が残した痛みは。希望を取られてしまったわたしの幸せの痛み——希望を取られてしまったわたしの幸せ。

#### 7. ラグリマ (涙) *Lágrima*

詞：アマーリア・ロドリゲシュ Amália Rodrigues

曲：カルロシュ・ゴンサウヴシュ Carlos Gonçalves

なやみにあふれて——なやみにあふれて わたしは横たわり——更にふえたなやみとともに目覚める。

わたしの胸に——もうわたしの胸に居ついた この気持ちの動きかた——こんなにあなたを愛している気持ちの動きかた。

絶望——わたしを絶望させるのは わたしの中の、わたしの中を痛めつけるこの刑罰。

あなたをほしくない——わたしは あなたをほしくないと言う。そして夜に——夜にはあなたの夢を見る。

いつの日か、死んでゆくことをさどったら、あなたに会えないゆえの 絶望のうちに、わたしはショールを地にひろげよう。

ショールをひろげよう。そしてそのまま まどろんでいこう。

もしも死ぬときに——もしも死ぬことによってあなたが——あなたがわたしのことを 泣いてくれるとわかったら、ひとしずくの涙——あなたのひとしずくの涙ゆえに、どんなにうれしく、わたしは命を捨てることだろう。